第７回
おかやま環境教育ミーティング
報告書

令和元年度 協働による環境学習推進事業（岡山県）
おかやま環境教育ミーティング実行委員会

第７回
おかやま環境教育ミーティング

● 日　時：2019 年 8 月 5 日（木）　10:00 ～ 17:30
● 会　場：岡山コンベンションセンター　1F イベントホール
● ブース出展：54 団体
● 進行役：日置　三津子　氏（共育コーディネーター）
● 参加者：244 名（一般参加者 220 名、実行委員・スタッフ 24 名）
● 満足度：93.5 点

参加者の年代、所属、きっかけは以下のグラフの通りであった。（図１～図３）

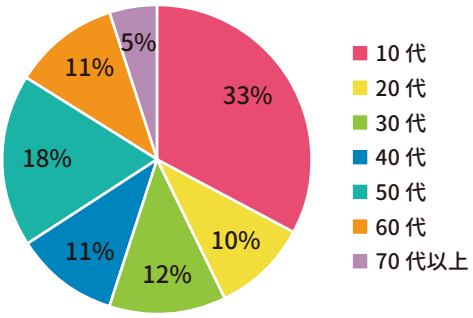


図１　参加者の年代（回答数 132）

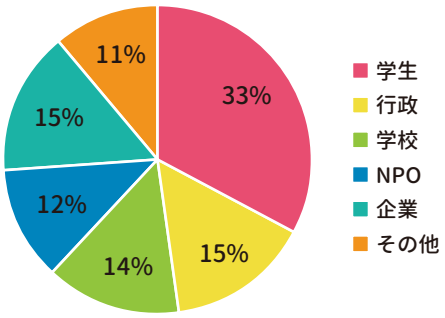


図２　参加者の所属（回答数 137）※複数選択あり

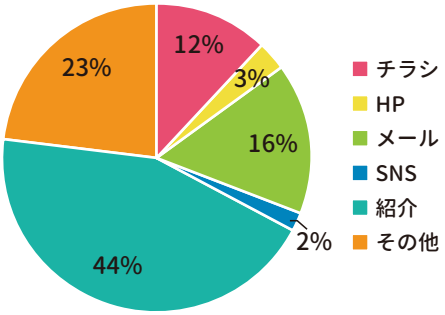


図３　参加したきっかけ（回答数 101）※複数選択あり

目 次

< 内容 >

スケジュール

9：30　受付開始

10：00　開会宣言および事務局説明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

おかやま環境教育ミーティング実行委員会　委員長　竹島　潤

かんきょうひろば事務局（ひろば説明、スケジュール、開催目的）

10：15　オリエンテーション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

共育コーディネーター　日置 三津子　氏

（今の気持ちと今日持ち帰りたいものの確認）

10：30　ブース展示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

・活動紹介　・自由交流（54 団体）

・ブースツアー（3 回 ×20 分、3 コース）

12：15　昼休み

13：15　午後のオリエンテーション（日置氏・事務局）・・・・・・・・・・・・・・・・・9

・動きと分科会の配置図など確認

・心構えと全体会のことなど説明

13：35　移動

13：45　分科会　＜分科会ごとに分かれて話し合い（11 分科会）＞ ・・・・・・・・・・・9

15：45　移動・休憩

16：00　全体会　＜ふりかえり、わかちあい＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

17：15　閉会挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

環境教育ミーティング実行委員会　副委員長　塩飽　敏史

＜アンケート記入＞

< アンケート結果 > ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

< スケジュール & 実施プロセス > ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

内容

10:00　開会宣言　　おかやま環境教育ミーティング実行委員会　委員長　竹島 潤

- 岡山では、昨年７月西日本豪雨の被害をうけ、60 人以上の方々が命を落とされ、8,000 棟以上の住宅が全半壊する、戦後最悪レベルの風水害が起こった。
- 以後も、各地で豪雨や厳しい暑さが続いていて、「ある場所で 30 年に１回程度しか起こらない、稀な現象」を意味する「異常気象」がそうではなくなってきている。
- 「もはや異常ではない」状況と言え、会場の皆さまも地球規模で進む気候変動をより切実なる重大事として受け止められていると思う。
- 一方、先の豪雨災害では、１０市町村で被災後１カ月間には延べ約５万人が現地ボランティア活動に従事し、「自助」「公助」はもちろんのこと、「共助」の大切さが確認された。
- ３つの K「気づく、考える、行動する」、これは防災の３K と言われるが、環境学習にも通じる。
- 全体会に加えて、５４ブース、１１分科会を通して、ファッション、公害、ゴミ、食育、自然保護、海洋ゴミ、SDGｓ基礎理解、防災、など、様々な切り口から持続可能な社会・環境の課題などに、「気づき・考え」そこから「いろんな人と手を携えながら」探究し、「行動」化していく機会を作って頂きたい。
- こうした姿勢そのものが ESD（持続可能な開発のための教育）だと言える。
- 地球のみんなで解決を 2030 年までに目指そう、と言う人類共通の目標であり、共通言語である「SDGｓ（持続可能な開発のための目標）」。13 番「気候変動に具体的な対策を」、17 番「パートナーシップで目標を達成しよう」などは特に想起しやすいことと思う。
- 今日のブースや分科会でテーマとゴール、ゴールとゴールのつながりを考えてみて頂ければと思う。
- 最後に、今回のミーティングには岡山県環境学習協働推進広場の皆様、公益財団法人岡山県環境保全事業団、実行委員会をはじめ皆さまから多大なるご尽力を賜りましたことにあらためて　感謝申し上げたい。

▲スタッフミーティング

▲コンベンションセンター 1F イベントホール 準備

▲受付の様子

▲名札づくり

10:05　オリエンテーション　　かんきょうひろばの説明　事務局

・本日のスケジュール
・開催趣旨
・かんきょうひろばについて

・この環境教育ミーティングは､かんきょうひろば（岡山県環境学習協働推進広場）が企画している。岡山県内において、環境教育を協働によって推進していこう！盛り上げていこう！というものです。
・かんきょうひろばは、登録制となっており、地域の団体、社団法人、財団法人、行政、環境学習に力を入れている学校などの登録があり、最近では企業の登録も増えていえる。様々なセクターの方が、集い、知恵　を出し合い、足りないところは助け合いながら、協働して環境学習を盛り上げているというのが、かんきょうひろばです。
・活動内容で一番大きなものは､「環境学習出前講座」。これは、学校や公民館、市民団体などからご依頼いただいて、そこへ登録している指導者や団体を派遣し、環境学習を提供しているもの。ニーズが高く、今では、　年間 300 件を超えることが当たり前になってきています。
・続いて「指導者養成講座」。これは、先ほどの「環境学習出前講座」の依頼数が毎年増えており、今後も増加が見込まれるため、県内で「環境学習出前講座」をできる指導者を育成していこうというものです。
・そして「交流、情報共有」。この環境教育ミーティングもそうですが、一緒にやっていくみなさんが交流して情報交換できる場、まなびあいができる場の提供を行っています。
・「環境」は、持続不可能になっている今の社会を持続可能な社会にするために重要な基盤となるテーマです。かんきょうひろばでは、環境学習をすることで地球にやさしい生活ができる人をひとりでも多く育てたいと考えています。
・今日お越しいただいている方で、かんきょうひろばに登録されていな方は、ぜひ登録してください。
・この環境教育ミーティングは、つながる場、学び合い高め合う場、協働が生まれる場を目指しています。今日はたくさんの方にご参加いただきました。しかも幅広い年代で､活動されているジャンルも広くなっています。こういった場は、全国探しても珍しいので、ぜひこの機会を活用して　活発な交流が行われればよいと思っています。心をオープンにして積極的な交流をお願いします。

▲司会　江國委員

▲開会宣言及び趣旨説明　竹島委員長

▲ひろば説明

10:15　オリエンテーション　共育コーディネーター　日置 三津子 氏

・参加にあたってのチェックインを行った
・自身の体調や今の気持ち、期待度などをジェスチャーで表現
・参加者同士で簡単な自己紹介
・最後に参加する上で少しでも楽しく、また主体的に学びを得るための心構えを共有

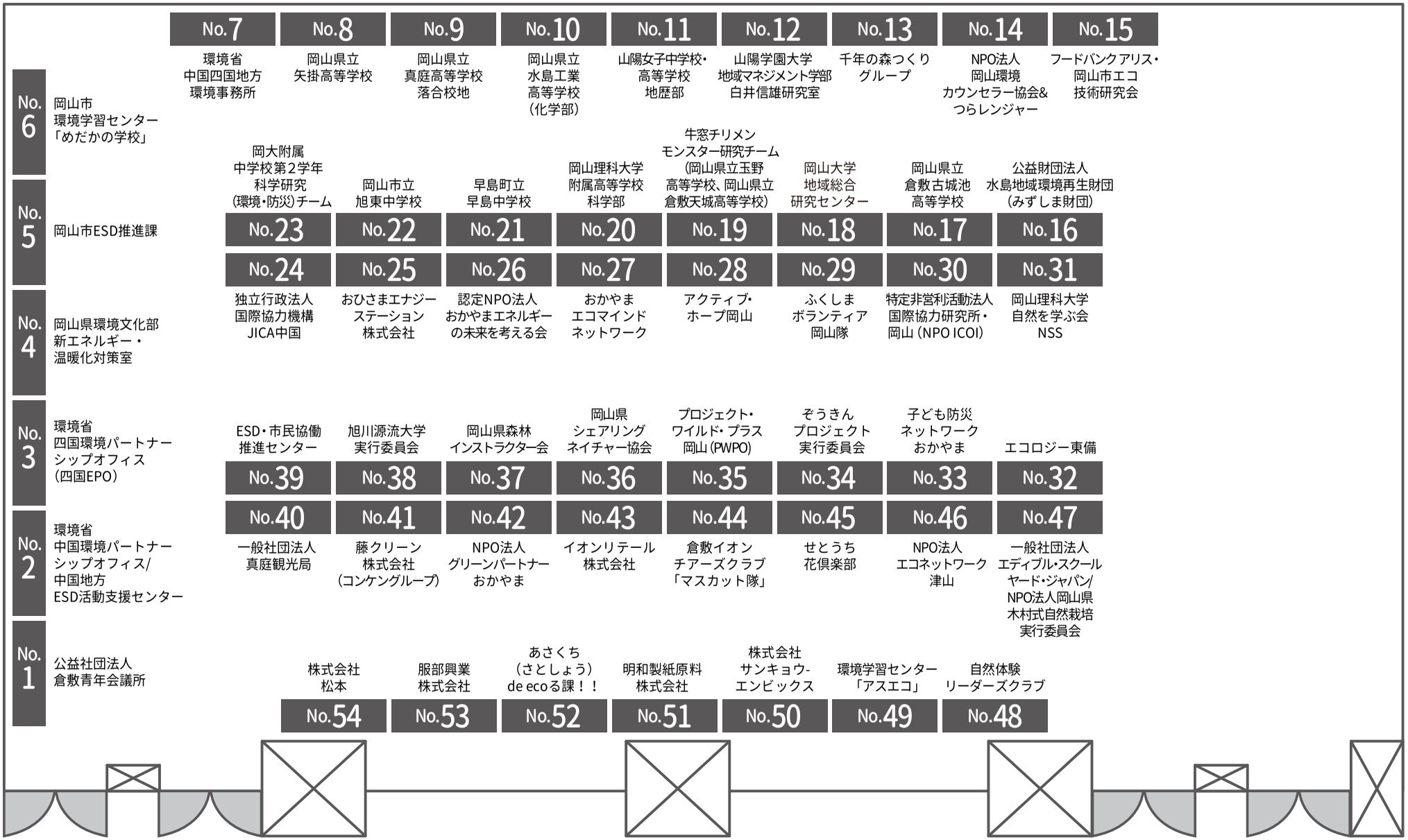
10:30　ブース展示（54 団体が出展）

・自由交流の場としてブース展示を行った。各出展者の活動紹介や実際に体験できるブースもあり、参加者同士がつながる場として大いに盛り上がった。
・また、ブースツアーとして以下の 3 つのコースに分かれ、それぞれ 20 分ずつ 3 回ツアーを行った。
A コース：ごみ、温暖化など　　B コース：生き物、SDGｓ　　C コース：行政、環境教育

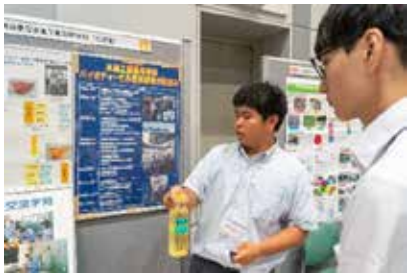
■ブース出展団体一覧（54 団体）

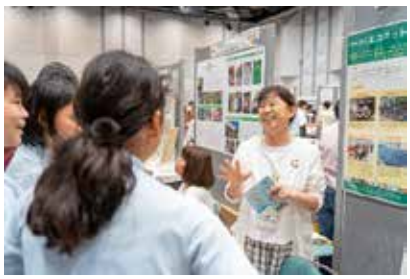
1	公益社団法人 倉敷青年会議所
2	環境省 中国環境パートナーシップオフィス/中国地方ESD活動支援センター
3	環境省 四国環境パートナーシップオフィス（四国EPO）
4	岡山県環境文化部 新エネルギー・温暖化対策室
5	岡山市ESD推進課
6	岡山市環境学習センター 「めだかの学校」
7	環境省 中国四国地方環境事務所
8	岡山県立矢掛高等学校
9	岡山県立真庭高等学校 落合校地
10	岡山県立水島工業高等学校 （化学部）
11	山陽女子中学校・高等学校 地歴部
12	山陽学園大学 地域マネジメント学部 白井信雄研究室
13	千年の森つくりグループ
14	NPO法人 岡山環境カウンセラー協会 ＆つらレンジャー
15	フードバンク　アリス・ 岡山市エコ技術研究会
16	公益財団法人 水島地域環境 再生財団（みずしま財団）
17	岡山県立倉敷古城池高等学校
18	岡山大学 地域総合研究センター
19	牛窓チリメンモンスター研究 チーム(岡山県立玉野高等学校、 岡山県立倉敷天城高等学校)
20	岡山理科大学附属高等学校 科学部
21	早島町立早島中学校
22	岡山市立旭東中学校
23	岡大附属中学校第２学年 科学研究（環境･防災）チーム
24	独立行政法人 国際協力機構　JICA中国
25	おひさまエナジーステーション 株式会社
26	認定NPO法人 おかやま エネルギーの未来を考える会
27	おかやまエコマインド ネットワーク
28	アクティブ・ホープ岡山
29	ふくしまボランティア岡山隊
30	特定非営利活動法人 国際協力研究所・岡山 （NPO ICOI）
31	岡山理科大学 自然を学ぶ会　NSS
32	エコロジー東備
33	子ども防災ネットワーク おかやま
34	ぞうきんプロジェクト 実行委員会
35	プロジェクト・ワイルド・ プラス岡山（PWPO）
36	岡山県 シェアリングネイチャー協会
37	岡山県 森林インストラクター会
38	旭川源流大学実行委員会
39	ESD・市民協働推進センター
40	一般社団法人 真庭観光局
41	藤クリーン株式会社 （コンケングループ）
42	NPO法人 グリーンパートナーおかやま
43	イオンリテール株式会社
44	倉敷イオンチアーズクラブ 「マスカット隊」
45	せとうち花倶楽部
46	NPO法人 エコネットワーク津山
47	一般社団法人エディブル･スクール ヤード･ジャパン/NPO法人岡山県 木村式自然栽培実行委員会
48	自然体験リーダーズクラブ
49	環境学習センター「アスエコ」
50	株式会社 サンキョウ-エンビックス
51	明和製紙原料株式会社
52	あさくち（さとしょう） de ecoる課！！
53	服部興業株式会社
54	株式会社　松本

■ブース展示会場　配置図


No.7 環境省 中国四国地方 環境事務所
No.8 岡山県立 矢掛高等学校
No.9 岡山県立 真庭高等学校 落合校地
No.10 岡山県立 水島工業 高等学校 (化学部)
No.11 山陽女子中学校・ 高等学校 地歴部
No.12 山陽学園大学 地域マネジメント学部 白井信雄研究室
No.13 千年の森つくり グループ
No.14 NPO法人 岡山環境 カウンセラー協会& つらレンジャー
No.15 フードバンクアリス・ 岡山市エコ 技術研究会
No.6 岡山市 環境学習センター 「めだかの学校」
No.5 岡山市ESD推進課
岡大附属 中学校第2学年 科学研究 (環境・防災)チーム
No.23
岡山市立 旭東中学校
No.22
早島町立 早島中学校
No.21
岡山理科大学 附属高等学校 科学部
No.20
牛窓チリメン モンスター研究チーム (岡山県立玉野 高等学校、岡山県立 倉敷天城高等学校)
No.19
岡山大学 地域総合 研究センター
No.18
岡山県立 倉敷古城池 高等学校
No.17
公益財団法人 水島地域環境再生財団 (みずしま財団)
No.16
No.24
No.25
No.26
No.27
No.28
No.29
No.30
No.31
No.4 岡山県環境文化部 新エネルギー・ 温暖化対策室
独立行政法人 国際協力機構 JICA中国
おひさまエナジー ステーション 株式会社
認定NPO法人 おかやまエネルギー の未来を考える会
おかやま エコマインド ネットワーク
アクティブ・ ホープ岡山
ふくしま ボランティア 岡山隊
特定非営利活動法人 国際協力研究所・ 岡山 (NPO ICOI)
岡山理科大学 自然を学ぶ会 NSS
No.3 環境省 四国環境パートナー シップオフィス (四国EPO)
ESD・市民協働 推進センター
No.39
旭川源流大学 実行委員会
No.38
岡山県森林 インストラクター会
No.37
岡山県 シェアリング ネイチャー協会
No.36
プロジェクト・ ワイルド・プラス 岡山 (PWPO)
No.35
ぞうきん プロジェクト 実行委員会
No.34
子ども防災 ネットワーク おかやま
No.33
エコロジー東備
No.32
No.2 環境省 中国環境パートナー シップオフィス/ 中国地方 ESD活動支援センター
No.40
No.41
No.42
No.43
No.44
No.45
No.46
No.47
一般社団法人 真庭観光局
藤クリーン 株式会社 (コンケングループ)
NPO法人 グリーンパートナー おかやま
イオンリテール 株式会社
倉敷イオン チアーズクラブ 「マスカット隊」
せとうち 花倶楽部
NPO法人 エコネットワーク 津山
一般社団法人 エディブル・スクール ヤード・ジャパン/ NPO法人岡山県 木村式自然栽培 実行委員会
No.1 公益社団法人 倉敷青年会議所
株式会社 松本
No.54
服部興業 株式会社
No.53
あさくち (さとしょう) de ecoる課！！
No.52
明和製紙原料 株式会社
No.51
株式会社 サンキョウ- エンビックス
No.50
環境学習センター 「アスエコ」
No.49
自然体験 リーダーズクラブ
No.48
入口

ブース展示の様子



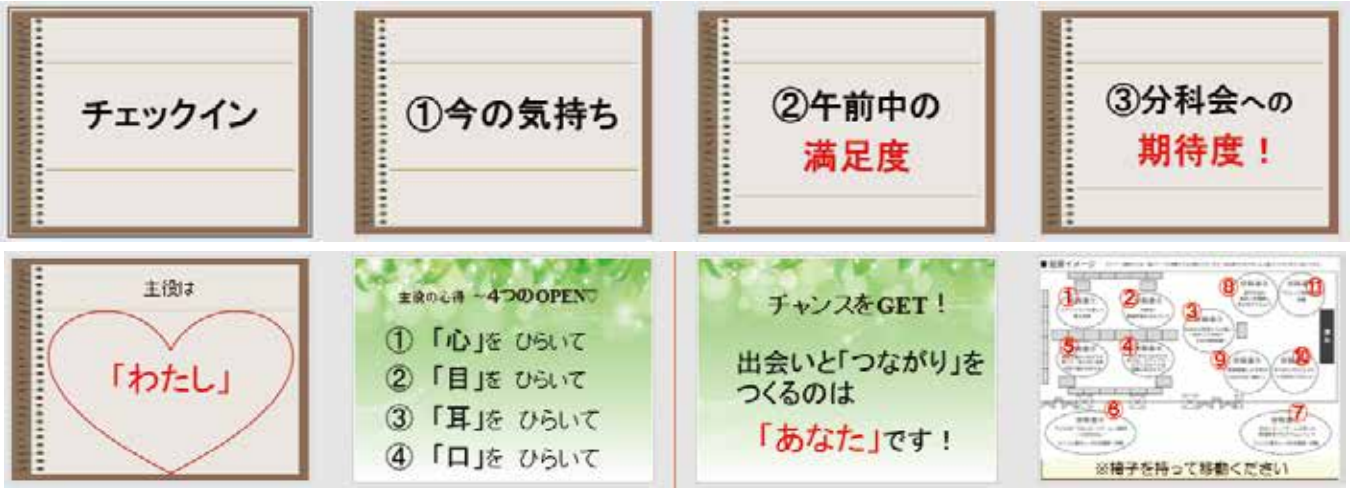


12:15　昼休み

13:15　午後のオリエンテーション　　共育コーディネーター　日置 三津子 氏

・午後のプログラムに向けてチェックインを行った
・午前のプログラムに参加しての今の気持ちや満足度、午後の分科会への期待度をジェスチャーで表現
・最後に主体的に楽しく、学びを得る参加をするための心構えを再度共有した

※分科会の配置と移動については事務局が説明を行い、参加者は受付で伝えられた分科会にそれぞれ移動した（参加する分科会については、申込時の希望を元に事務局にて事前に割り振りを実施）



13:45　分科会

・分科会は 11 のテーマに分かれて行った。
・それぞれの分科会は、おかやま環境教育ミーティング実行委員を中心に依頼を行った講師またはファシリテーターが企画と運営を担った。
・一方的に伝える講義形式のようにならないように参加者同士による意見交換を大切にした。
・SDGS のカードゲーム体験の分科会もあれば、大学生が中心に若者を対象にした参加交流型の分科会など多岐にわたる分科会で構成され、、それぞれで活発な交流が行われ、楽しみながら学び合うことができた。
・参加者は他者の意見を聞き、自分の意見を発することで、自身の考えを整理して共有する時間となった。

1　ファッションを通して見る世界

参加者数 12 名

講師：守都未来 、原田陽輔（独立行政法人国際協力機構　中国センター　岡山県JICAデスク）

【概要】

私たちの身の回りにあふれている安いお洋服の数々。その生産過程や廃棄される過程で、実はたくさんの環境問題を引き起こしています。繊維産業は石油産業に次いで 2 番目に環境破壊を引き起こしている産業といわれています。安いファッションの裏側に潜む多くの課題を紐解きながら、消費者としてどんな選択をしていくのかについて、現地での写真やカードゲームを通して考えました。

【実施内容】

①ファッションを通して見る世界（守都氏）
- 自己紹介（アイスブレイク）
- 世界の状況を写真で紹介
- モノはどこからやってくる？神経衰弱カードゲーム
  （自分たちの暮らしと世界が抱える課題との繋がりを考える）
- 繊維産業プロセス並び替えゲーム
  1.ミャンマー 2.ファストファッション プロセスの違いを考える
- ファストファッション生産時に起こる環境問題を写真で考える
  陸上に取り残された船、様々な色に染まった川　等
  →繊維産業は世界で 2 番目に環境汚染を引き起こす産業
- 複雑に絡み合った世界の課題の解決法「SDGs」の紹介
- SDGs チャレンジシートに自分のできる目標を記入し共有

②青年海外協力隊の活動紹介 in スリランカ（原田氏）
- スリランカでの活動紹介や文化、歴史を写真で紹介

【記録担当者】
小野　雄大（環境学習センター「アスエコ」）

【まとめ】

一方的に話を聞くのではなく、パワーポイントでの写真の紹介や様々なゲームを通して、参加者が楽しみながら、参加できていた。

2　水島発！環境学習まちづくり

参加者数 15 名

講師：岡山大学地域総合研究センター　岩淵泰 / 岡山県立倉敷古城池高等学校　ワッショイとーかーず

【概要】

倉敷市水島では、大学生や高校生といった若者の地域での学びを大人が支え、若者が地域づくりに参画することで持続可能な地域づくりを目指す取り組みが始まっている。本分科会では、高校や大学で行われた地域学習の実践事例の紹介後に、「高校生が魅力的に思うまち」「そのために市民や行政が何を提供できるか」について参加者でグループディスカッションを行った。最後に持続可能な社会作りに向けて各グループで出た意見を発表し、まとめを行った。

【実施内容】

①オリエンテーション
②ワッショイのとーかーず活動紹介（水島での）
③岩淵講師による大学での地域学習紹介
④グループディスカッション (30 分)
⑤全体での意見交換

【記録担当者】
田淵　祥太 (岡山大学学生)

【まとめ】

参加者からは、「実現できそうな意見がたくさん出てよかった。」というような感想があり、テーマである「若者が地域で学ぶ環境をつくるために」について考えてもらえたようだ。また、「もっと自然環境に踏み込んだ話もしたい」という意見もあり、120 分では足りないくらいにたくさんの対話が生まれていた。

3　未来ある若者たちの集い～若者による若者のための環境会議～

参加者数 7名

講師：岡山理科大学自然を学ぶ会（森川源太、山中流衣、嘉数滉大）

【概要】
環境分野で活動している大学生による若者限定のワークショップを行った。若者たちで環境について話し合い、誰でも話しやすいフラットな場の中で若者同士のつながりの輪を広げた。

【実施内容】
① 自然を学ぶ会の紹介
② 参加者の自己紹介（他己紹介）
③ 参加者同士で語り合い（２グループに分かれ）
④ 語り合ったことのふりかえり
⑤ 環境会議
⑥ みんなでつくる環境教育ミーティング
⑦ まとめ、感想

【記録担当者】
佐藤　幹太（岡山理科大学学生）

【まとめ】
この分科会は、テーマ名にもあるように、参加者の対象は若者であった。実施内容⑦での参加者からの感想では、“同年代の人たちや自分たちと同じ中高生と環境について話し合う機会はなく、とても良かった” というような感想が多く聞かれ、分科会のねらいに沿っていてよかった。また、他の感想では、プレゼンではなく話し合いと言うのが良かったという声や、実施内容②で行った自己紹介であだ名を決めそれのおかげで緊張がなくなったというものもあった。

4　食と命のつながりを考える、エディブル・スクールヤードを地域に広げよう！

参加者数 12名

講師：田辺綾子（一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン、NPO法人　岡山県木村式自然栽培実行委員会）

【概要】
1995 年にアメリカで始まった「エディブル･スクールヤード」は、食と命のつながりを学び、持続可能な生き方を身に付ける教育として注目されている。
倉敷市内でエディブル・スクールヤードと木村式自然栽培に取り組む田辺氏から、小学校での実践事例を中心にエディブル・スクールヤードのプログラムの特徴や、その効果について紹介していただいた。その後、参加者と今後の可能性についてディスカッションを行った。

【実施内容】
① オリエンテーション
②「エディブル・スクールヤード」の紹介
　※栽培した六条麦の麦茶とペットボトルの麦茶のブラインドテイスティング
③ 質疑応答、ディスカッション
④ まとめ

【記録担当者】
塩飽　敏史（公益財団法人水島地域環境再生財団）

【まとめ】
参加者からは、「エディブル・スクールヤードの実践そのものを取り入れたい」、「人として生命を守り続けていけるのだろうか？食の問題を大切に守り育てる・今考え実行できる事だと思う」といった感想があり、エディブル・スクールヤードの取り組みへの理解は深まったと思う。同時に、「活動を広めていくための PR 活動は？」、「大人向けエディブル体験伝道師を育てる」といった意見もあり、今後この取り組みを持続可能な生き方を身に付ける学びとして広めていくことが重要との意見が多かった。田辺氏からは、地域や学校が主体的に取り組むことが重要で、こちらから積極的な広報は行っていないといった説明もあり、いかにこの活動を知ってもらい、主体的に取り組む意識を育てていくかがポイントと感じた。

5　森里川海のつながりを知って　私たちに出来る取り組みを考える

参加者数 19 名

講師：小桐登（一般社団法人おかやまエコサポーターズ）

【概要】

起：実施者より岡山県を中心にした「森里川海」に関わるくらしや構造物の変化と現状、予測の話題提供
承：岡山で森里川海のつながりを取り戻す事例紹介（上流・中流・下流沿岸域）
転：森里川海のグループに分かれ、気になったことを２回共有、課題と解決案を共有
結：森里川海について自分で取り組みたいことをシート記入し、ホワイドボードに貼って全員で確認・共有

【実施内容】

①オリエンテーション（資料紹介＋進め方）
②森里川海の変化の情報提供。
（1945 年～ 2100 年までの年表と紙芝居プレゼンテーション）
③岡山で森里川海のつながりを取り戻す企業・漁協・学校の取り組みや教育の事例発表。服部興業株式会社、株式会社松本、旭川上流下流の小学校での総合学習、日生漁協・日生中学校の取り組み、山陽女子学園
④森里川海の４グループに分かれ、参加者の自己紹介、気になったことの共有（２回）し、その後各人で課題と解決策を考え共有する
⑤自分で取り組む森里川海の課題をシート記入し関係する SDGs の目標との関連も記入。（テーマ、誰と、いつから、どのように、ゴールはの項目）全員のシートを森･里･川･海でグルーピング、掲示し全員で共有、最後に満足度を手の高さで表現して貰い終了。

【記録担当者】
小桐　登（一般社団法人おかやまエコサポーターズ）

【まとめ】

- 参加者が実施する行動として「ごみのポイ捨てやめる＋ゴミ拾い」や「里山再生にむけフィールドを探す」、「森・里・川・海の役割を学ぶ『循環サイクルツアー』（次年度を目処に企画立案を目指す）のアイデアが出された。
- 感想では、海ゴミの回収と啓蒙を行う NPO 法人理事長より、「とても良かった」と言う声をいただいた。
- 満足度確認では「期待以上の満足を示した参加者が半数以上、その他も満足の意思表示があった」。
- 説明資料として、森里川海の変化と年表、記入シートを３種準備したことで、机があればもっと良かったと実感。
- ワークショップ形式で聞いて、考えて、書いて、シェアする手法は良かったのではないか、自分事としてシートを作成したことで、参加者の学びも深まったと思われる。
- 最後に全員の発表を確認する時間が足りなかったのが残念！

6　子ども向け「SDGs カードゲーム」体験会 ～ 2030SDGs ～

参加者数 20 名

講師：松本昌彦、熊本雄介（公益社団法人倉敷青年会議所）

【概要】

一般社団法人イマココラボ作成のカードゲーム「2030SDGs」の子ども向け版を体験しながら、SDGs はみんなで目指す目標であること、世界は繋がっていて一人一人の行動が世界の状況に影響を与えること、多世代多業種が協働して目標を達成していく必要性を意識づけました。

【実施内容】

10 分 ①オリエンテーション（講師・参加者の自己紹介）
30 分 ②カードゲームのルール説明
10 分 ③カードゲーム体験前半（行動タイム＋結果発表）
10 分 ④カードゲーム体験中盤（行動タイム＋結果発表）
20 分 ⑤カードゲーム体験後半（行動タイム＋結果発表）
40 分 ⑥体験中の考えや感想の共有・まとめ

【記録担当者】
佐戸　果林（岡山県環境文化部新エネルギー・温暖化対策室）

【まとめ】

参加者にはカードゲームの達成目標として、各チームの自己目標と全体（世界）の目標が与えられていたが、まず前半・中盤は自己目標の達成が重視され、世界情勢は経済発展の裏で環境や社会が悪化、後半に入って全ての全体目標が達成される流れとなったのが、世界の縮図を見ているようで印象的だった。参加者がそれぞれ活発に動き、カードゲームを通して楽しく、協働の意識や SDGs への関心を高めている様子だった。

（参加者感想）
・前半は視野が狭く、自己目標の達成にとらわれ、達成していく周りに取り残されている気分だったが、助けてくれる参加者がいて、世の中良い人がいるんだ、みんなでやっているんだなと実感できた。
・自己目標が達成できたら、周囲や世界情勢（ホワイトボードの表示）に目を向けるようになり、自分の資源を他者へ配分してもいい、環境・社会の改善に貢献したいと思うようになった。

7　SDGｓカードゲームを使った環境教育プログラムについて

参加者数 24 名

講師：中国四国環境事務所（岩見暢浩、松田美紀、西村浩美）

【概要】
金沢工業大学の SDGｓ推進センターが作成した SDGs カードゲーム『THE SDGs Action cardgame「X（クロス）」』を体験すると共に環境教育プログラムとしての活用を考えました。

【実施内容】
13:30~　あいさつ、自己紹介
　　アイスブレイク（グー・チョキ・パーじゃんけん）
　　EPO 中国の紹介、PKT（名前、所属や活動、参加の動機を参加者で話す）
13:40~　SDGs 概説→カードゲーム X（クロス）導入
14:00~　カードゲーム X のルール説明
14:27~　手順説明しながら体験（セッション１）
14:40~　感想共有（2 グループ）
14:45~　　休憩
14:55~　タイムキープのみで体験（セッション 2）
15:00~　学習プログラムの活用アイデア（グループテーマ）募集～席替
　　グループシンキング（カードゲームの活用方法を考える）
　　テーマ４つ（①環境学習で使うアレンジ②学校現場で使うなら
　　③ゲームのやり方を考える④トレードオフが成立するか考える）
15:10~　話題別アイデアフラッシュ～アイデアとりまとめ
15:30~　アイデア共有、質問タイム
~15:45　終了

【まとめ】
- 講師の丁寧な口調で行われ、最初に SDGs の概要について説明があったので、SDGs についてあまり知らない人でもついて行くことができた。
- SDGs カードゲームはとても盛り上がっていた。
- 後半部分で、本カードゲームの改善点についても話し合うグループシンキングを行い、「環境学習で使うアレンジ」について話し合うことが出来たことも次につながる形だった。

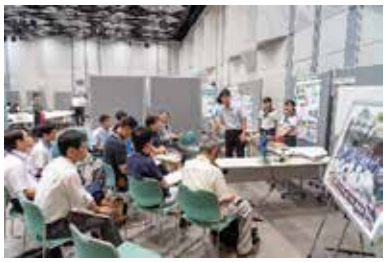
【記録担当者】
神垣　匠（環境学習センターアスエコ）

8　瀬戸内海の海洋ごみ問題に目を向けてみよう

参加者数 23 名（1 回目 13 名 2 回目 10 名）

講師：山陽女子中学校・高等学校 地歴部

【概要】
瀬戸内海における海洋ごみ問題の現状を地歴部の活動、調査結果を通じて学ぶ。海洋ごみのなかで多くを占めているプラスチックやビニールは、現代の生活には必要不可欠。海洋ごみを減らすために私たちが普段の生活の中で出来ること、また、社会がどうあるべきかを議論した。



【実施内容】
①スライド説明
- 海洋ごみの種類
- 海洋ごみの認知度（流域の上・中・下流）
- 地歴部の活動及び調査結果
- 海底ごみや漂着ごみを見える化したことによる活動の広がり

②議論
- 個人レベルでの意識改革
- 代替品の普及
- プラスチックに依存しない社会になることへのリスク

【まとめ】
参加者は、地歴部による瀬戸内海での取り組みや調査結果を知り、身近な場所で発生している問題に対して改めて関心を寄せていた。議論の時間になると、「地元ケーブルテレビの活用」、「ペットボトルのデポジット制度」、「生きものとの関連」など様々な分野、世代の参加者からコメントが続出し演者と参加者がともに学び、考えていく場になっていた。

【記録担当者】
三澤　有輝　（岡山大学学生）

9　気候変動による天災・人災からの"減災"

参加者数 35 名（1 回目 20 名 2 回目 15 名）

講師：則武 秀明（特定非営利活動法人 日本防災士機構　防災士）/ ファシリテーター：竹島 潤（岡山大附属中教諭／NPO法人国際協力研究所・岡山）

【概要】

（1）ミニ講義やペアトークなどを通して、気候変動がもたらす天災やそれに付随する人災について知り、その深刻さや自他の安全を守ることへの関心を高める。【自助】

（2）東日本大震災や西日本豪雨災害における現地ボランティア活動について知り、防災やボランティア活動への関心を高める。【共助】

【実施内容】

①オリエンテーション
②ペアトーク（自己紹介）
③話題提供 1　気候変動からの水問題・天災と人災
④話題提供 2　現地ボランティア活動（動画視聴含む）
・福島県双葉郡浪江町（東日本大震災）・倉敷市真備町（西日本豪雨災害）
⑤質疑応答
⑥ふりかえり

【記録担当者】
竹島　潤（岡山大附属中教諭・NPO ICOI 副代表理事）

【まとめ】

参加者は人口増加、農業、エネルギー、水資源などの諸問題と気候変動のつながりを、国際機関のデータやスライドを使いながらのクイズを通して学んだ。防災士より、釜石の「悲劇」と「奇跡」について講義と動画視聴で知り、「自助」が機能するには「共助」が充実しなければならないこと、よって「共助」を育む現地ボランティア活動が大切であることを学んだ。実際に福島県浪江町や倉敷市真備町の被災状況やボランティア活動の様子をスライドで見せるとともに、その体験を青少年に伝える取り組みについても共有することができた。関連の取り組みについて詳しく学ぶために、分科会１０「ぞうきんプロジェクト～いま自分にできること」との連続参加をされた方も多く、有意義な学びになったと思う。

10　ぞうきんプロジェクト～いま自分にできること～

参加者数 29 名（1 回目 12 名 2 回目 17 名）

講師：白井崇裕　（ぞうきんプロジェクト実行員会）

【概要】

西日本豪雨災害の支援団体として立ち上がった「ぞうきんプロジェクト実行委員会」について参加者に知っていただいた。立ち上げ時の経緯や思い、その後の連携や協働の仕組み作りから、「連携・協働において大切なことは何か？」について参加者同士で考えを深めていただいた。

【実施内容】

①参加者の自己紹介
②情報提供
③グループ協議
④参加者同士で共有

【記録担当者】
江國　友哉（岡山市立福浜中学校・NPO 法人国際協力研究所・岡山）

【まとめ】

参加者からは、「何をすればよいかをキャッチするために、SNS を活用することは有効だと思った」「自ら情報を発信する際にも SNS は有効だと考える」「自己満足ではいけない」「ニーズに応えることが大切」「負担になりすぎないようにすることも大切」といった声があがり、これからの連携・協働において大切なことについて、学びを深めていただけたように思われる。

11 「それって環境教育？」談義

参加者数 19名（1回目 12名 2回目 7名）

ファシリテーター：友延栄一（岡山市教育委員会公民館振興室）

【概要】
環境教育の活動を行う中で、やりがいを感じるとともに、このままでいいのだろうかと思うこともあると思われる。そこで、環境教育活動を実践する中で感じている疑問や悩みを、集まった人同士で語り合う場を設けた。

【実施内容】
①自己紹介
②環境教育の活動に関わって「これでいいのか？」と思った体験、疑問の共有
③疑問に対して、参加者同士で談議
④出された体験、疑問、意見のふりかえり

【記録担当者】
友延　栄一（岡山市教育委員会公民館振興室）

【まとめ】
環境教育の指導者、企画者だけでなく、高校生も参加したことで、環境教育のそもそも論から、具体的な指導上のことまで、多くの疑問や悩みが出された。疑問や悩みを出して共有するところで終わり談議まで展開できなかったのが残念だが、「目的が共有されていない。」「やるだけで満足してないか。」「体験だけでふりかえりができていない。」「身近でない問題への関心の低さ」など環境教育の展開で、克服したい疑問が出されたので、今後の「かんきょう広場」の取組に展開させたい。

15:45　移動・休憩

16:00　全体会　　共育コーディネーター　日置 三津子 氏

[内容]
- 異なる分科会同士になるように６人組のグループに分かれて交流を行った。
  （グループは、移動先の番号が名札に記載してあり、多様な構成になるように注意した）
- 最初に参加にあたってのチェックイン
  （今の気持ち、分科会の満足度、全体会への期待度などをジェスチャーで表現）
- 参加者同士で簡単な自己紹介をした後に、１日の「ふりかえり」と「わかちあい」として以下の設問に対してキーワードを書き、グループ内で意見交換を行い、１日の学びや気づき、想いについて一人一人整理し共有した。
  ①参加した分科会のキーワード３つ
  ②改めて、環境教育で大事にしたいと思ったこと
  ③自分にできること＋そのために、今の自分に必要だと思うこと
  ④今日一番の収穫だと感じたこと＋今日の感想
- 共有したことを自ら発表したい方やグループ内での他薦により、書いた内容や想いを会場全体に向けて発表、共有した。中学生などの若い世代の発表が多くあったことから、会場全体が活性化し、多くの意見が交わされた。

①今の気持ち

②分科会の
満足度

③全体会への
期待度！

フリップボードを使って
6人組で交流

①
参加した分科会
キーワード3つ

②
あらためて
環境教育で大切に
したいと思ったこと
キーワードで♡

③
そのために今の自分に
必要なこと
出来ること
キーワードで♡

④
今日、一番の収穫
今日の感想
キーワードで♡

17:15　閉会挨拶

環境教育ミーティング実行委員会　副委員長　塩飽 敏史

- 環境教育ミーティングは、年々若い人が増えており、盛り上がってきていることを今年も実感することができた。大人も負けないようにしないといけない。
- 今日は、ミーティングの趣旨である、つながり、協働のきっかけは生まれ、気づきや、考え、行動するきっかけがつかめたことと思う。
- 今回、SDGs をテーマに掲げているが、SDGs はアイコンに当てはめるだけのものではなく、それぞれの 目標を達成するために、行動を変えていくことが重要で、求められている。
- かんきょうひろばは、SDGs の実現に向けて、環境教育の取り組みを今後も継続していきます。ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

▲閉会挨拶　塩飽副委員長

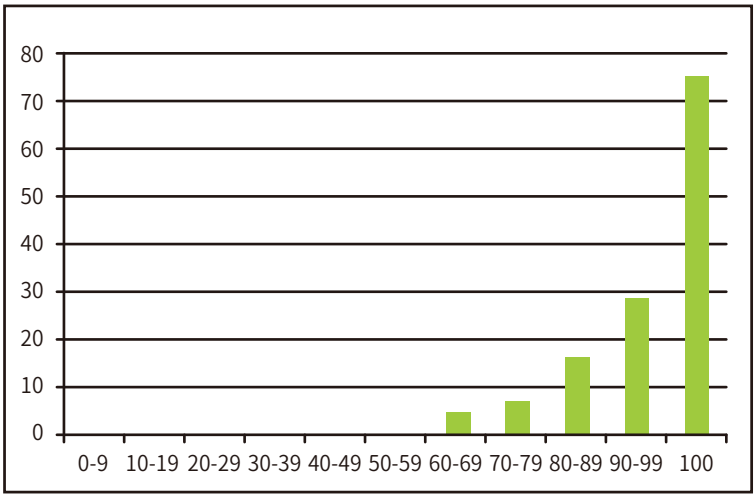
アンケート結果（回収 135 人 / 244 人）

Q．本ミーティングに参加された目的や期待することを教えてください。

【コメント（一部抜粋）】
・岡山で、今、どんな人たちが環境についてどんなことを思い考え、どんな活動をしているのか知りたいと思い参加しました。
・若い世代に語り伝えたい！
・岡山の環境教育の現状を知る。人とのつながり、情報交換。
・他団体の活動内容、交流、同世代との交流。
・少しでもこういった機会に参加し、一人でも多く環境について意識してもらえるようにしたいです。
・SDGs について勉強させていただきたいのと、いろんな方と出会い、つながっていきたいと思ったので参加しました。
・色々な話が聞けて、いろいろな視点で話を聞くことができた。同年代で素晴らしい感想を言っていて感心を持った。
・新しい考え方、新しいつながり、次につながるつながり。
・自分の所属する団体の PR、人とのつながり。
・林業以外の SDGS の取組を学ぶこと。またたくさんの人脈を広げること。
・色々な団体や学校のブース展示を見て学び、これからの生活に生かしていきたい。
・自分の知らない知識を得て、環境問題に対する意識を変えること。
・普段は得られないつながりを得ること活動している人と交流して、活気をもらうこと。
・学習キットを作る上で、社外の方のお話（想い）を参考にしたい。他団体の方の取り組みを勉強し、
これからの活動の参考にしたい。
・SDGs カードゲームのやり方、次の活動のヒント。
・企業として環境問題や SDGs にどのようにかかわる事ができるかヒントをいただける機会にしたい。
・海ごみ、マイクロプラスチックについて知る。
・岡山県全体でどんな環境教育（活動）が行われているか知りたい。

Q．本ミーティングの内容は、あなたの目的や期待を 100 点とした場合、何点でしたか？
また、その理由を 教えてください。

【理由（一部抜粋）】
・たくさんの情報を得られて満足です。
・中学生、高校生がすごくよく反応してくれた。
若い人々に、感謝。
・中学生、高校生との交流は新鮮だった。
大学生がもっといればよりよい。
・すべてがよい刺激（宝）になりました。
・得るものが沢山あった。
・少しずつでも活動出来ることを続けていく
気持ちを持てました。
・色々な話が聞けて色々な人から学ぶことが
出来てとても良い 1 日だった。
・楽しく終れたこと、初めての人や久々に会う
人とのつながりがあったのが良かったです。
・知らなかったことがたくさんあって、それを
知れたのがうれしかったです。



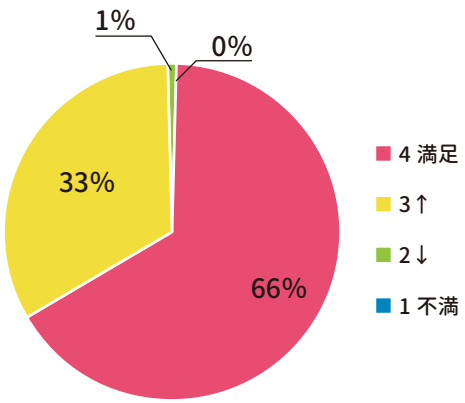
点数の頻度分布（回答数 131）

◆参加者の大部分の方から 90 点以上の評価をいただいた。（平均 93.5 点）

・普段全く違うことをしている人たちが「環境教育」というテーマで同じ方向、ベクトルになったことがステキ。
・高い志をもった人たちと知り合えたこと。
・いままで生きてきた中で 1 番学べて 1 番楽しかったから！！
・同学年の人とか自分より 20 や 30 上の世代の人までたくさんの意見が聞けたから。
・環境教育に関する問題意識が想像以上に高かった。
・全体会がよかった。
・よく準備がされていて、若い人との交流をさせていただき楽しめました。
・時間が足りないくらいでしたが、充実した 1 日を過ごすことができました。
・ブース発表、分科会ともに勉強になりました。
・これから一緒に活動する仲間と出会えた。ただ、まだ出会っただけなので、これをしっかりと形にしていきます。
・全てのブースをまわりきれなかった。もう少し時間がほしいと思いました。
・いろいろな活動をされていることの情報が得られました。今後さらにイベント等に参加したいと思います。
・中高生が多世代と自然に出会う場であった。
・いろいろな場所で、森や川をきれいにしたりして、自然を守ることなどを持続可能にしていくことを考えたりできた。
・たくさん考えさせられる展示があった。

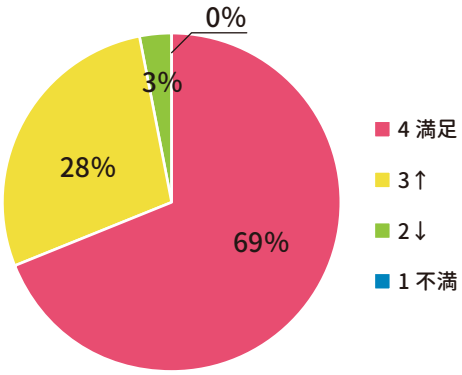
Q．ブース展示について感想をご記入ください。

【感想（一部抜粋）】
・ブースのツアーがあったのはありがたかった。同じ内容に
　興味のある物が集まって同じ話を聞くのは効果的。
・昨年よりブースが増えていたのと、学校関係も増えていたので
　おもしろかったです。
・どれもどんなことをまとめているのかとてもわかりやすく、
　とても興味深かった。
・それぞれいろんな個性があり、知識を得られた。
・それぞれにわかりやすくまとまっていたので、取り上げて活動
　されている内容がよく理解できました。時間が足りないくらいでした。
・色々な団体や企業の方の活動を見れたし、直接話も出来てよかった。
　ブースを回る中でいろんな出会いとつながりができた。
・いろいろなブース展示を見てとても勉強になった。
　詳しい説明をしてくださってよかった。
・様々な視点での興味深いブース展示が多くあり、勉強になりました。
　環境へのかかわりの深さは様々でも、
　それを環境に結び付けるということが大切だと思います。
・いろんなものがあり、分かりやすく説明してくださったりしたので、関心を持てました。
・資料を見たり、自ら作るワークショップもあって良かったと思います。



ブース展示の満足度（回答数 134）

Q. 分科会について感想をご記入ください。



分科会の満足度（回答数 134）

【感想（一部抜粋）】

◆ 分科会 No.1 【ファッションを通して見る世界】
・自分たちの何気ない行動と、世界とをつなげて考えることができた。
・自分がもっと世界の様子、環境問題に向けて考えることができ、とても良かったです。
・ファストファッションについて知り、その課題について知ることができよかった。

◆ 分科会 No.2 【水島発！環境学習のまちづくり】
・水島のいままで知らなかった“環境”について知る事ができ、とても良かったと思います。また、若い方の活動がすばらしいと感じました。
・学生が活発に活動していてビックリした。こんなに多くの動きができているのか。今の学生はすごく積極的で安心した。対象とする年代によって考えることが異なる。勉強になりました。

◆ 分科会 No.3 【未来ある若者たちの集い ～若者による若者のための環境会議～】
・同世代の方たちばかりで、かた苦しくなく主張しやすかった。
・大学生さんたちがやってくれて、同年代ぐらいで、他の人といろんな話ができた。
・気軽に気楽に参加出来て楽しかったし、同じ世代の意見を交流できてよかった。

◆ 分科会 No.4 【食と命のつながりを考える、エディブル・スクールヤードを地域に広げよう！】
・内容が濃く、わかりやすい説明で、目的がすばらしいと思いました。
・学校では食べることが難しいという中で、やり方を工夫して取り組みを広げていかれていて、すばらしいと思いました。

◆ 分科会 No.5 【森里川海のつながりを知って、私たちに出来る取り組みを考える】
・広い世代がテーマをもとに意見を出し合えたことが良かった。改めてすべてつながっていることを実感しました。
・森・川・里・海のしくみについてくわしく知れました。森と川のことだけでなく海の事を考える必要がある。

◆ 分科会 No.6 【子ども向け「SDGｓカードゲーム」体験会～ 2030SDGs ～】
・SDGs が楽しく学べました。「世界はつながっている」を合言葉に、仕事でも意識してがんばります。中学生・高校生の意見、感想がすごかったです。びっくり。
・ゲームということで、全くイメージがわかないままの参加でしたが、SDGs を知れただけでなく、今の自分の活動の意味を考えることが出来ました。
・簡単にそして楽しく SDGs のことが知れて良かったです。学校でもやりたい！

◆ 分科会 No.7 【SDGｓカードゲームを使った環境教育プログラムについて】
・SDGs のことをあそびをとおして学べるのが本当によかった！！
・ゲームについてとても興味がわくものでした。次は子どもたちともやってみたいです。
・学びたい、知りたいと思っていたことが良く分かりました。子供たちに何を伝えればよいのかのヒントを見つけれました。

◆ 分科会 No.8 【瀬戸内海の海洋ごみ問題に目を向けてみよう】
・海洋ゴミの量の多さにあらためてびっくりです。NPO 法人や山陽女子中・高のイベント開催日程などについてもっと知りたいと思いました。
・海ごみの知識が浅いので、多くの知識や現在の状況を知る事ができたので良かった。
・海洋ゴミ問題等についての現状や問題について参加者みんなで考えることができた。

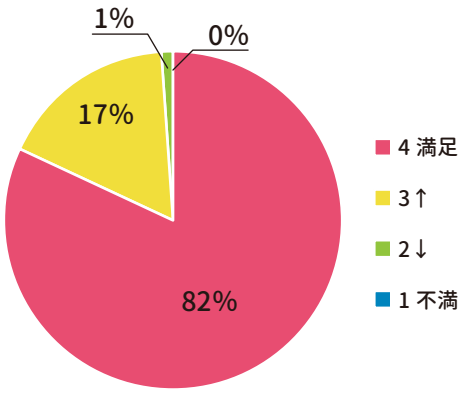
◆ 分科会 No.9 【「気候変動による天災・人災からの " 減災"」】
・すばらしい！
・災害についてとても深く考えれた。自然災害や助け合いについて深く学べた。
・どちらもとても分かりやすかった。

◆ 分科会 No.10 【ぞうきんプロジェクト　～いま自分にできること～】
・ぞうきんプロジェクトはすごいと思った。災害あった地域を助けるために小さいことからでも助けになるように何かしていきたいと思った。
・ぞうきんプロジェクトについてとてもわかった。自分にできることについて考えれました。

◆ 分科会 No.11 【「それって環境教育？」談義】
・これって環境教育？ってことや環境教育をする上での疑問に対してヒントをもらえました。
・環境教育とは…これほど真剣に考えたり意見をお聞きしたことがなかったので有意義でした。

Q．全体会について感想をご記入ください。

【感想（一部抜粋）】
・若者、中学・高校生、大学生の参加がうれしい。
・まさにかわいた砂に水がしみこむように多くのことを吸収してくれたようでうれしかった。
・司会（日置さん）のカラーや人柄が出ていてとても和やかな雰囲気の中で進行し心地良かったです。
・本当に中学生・高校生の考え方、感想がすごい刺激になりました。
・色々な方と出会い、話ができ、沢山の刺激がいただけて良かった。
・感想の発表（特に中学生）がすばらしかった。
・自分が行っていない分科会以外のことが、いろんな人と交流して知れたのでよかった。
・ブース展示で話した人と一緒になれてとてもたのしかったし、その人のことをとても知れてよかったです。
・いろんな世代の人と話し合うことで発見や、目標を作ることが出来て良かったです。楽しく学べた！！
・たくさんの人と交流が出来て、その人たちそれぞれ個人のことをたくさん聞けたのが本当に良かったです。
・とても緊張したけど最後には自分の思っていることをすべて言うことができた。
・皆さんの熱が伝わってきてとても刺激を受けました。
・紙にキーワードを書いて話をするというパターンはとてもよかった。
・6 人の話が真剣でためになった。話に夢中で良い時が流れました。

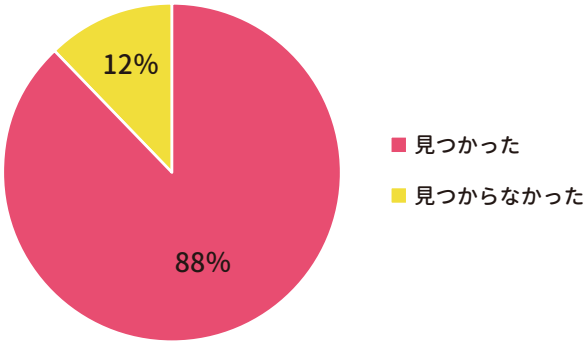


全体会の満足度（回答数 134）

Q．本ミーティングで、新しいつながり、知識、スキルなどが見つかり、あなたの次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかりましたか？見つかった場合、よろしければ、その内容を教えてください。

【見つかった手ごたえやヒント（一部抜粋）】

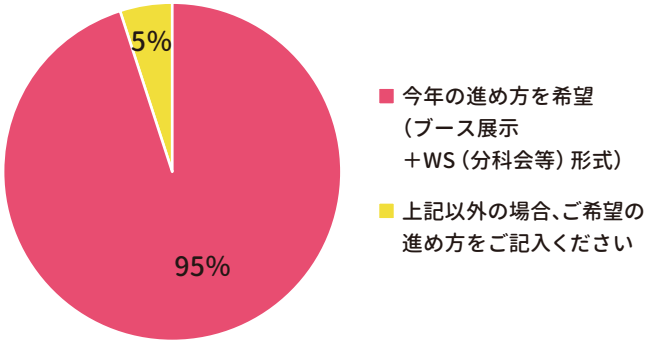
・60 歳からは「環境教育アドバイザー」という肩書を入れて自分の名刺を作ってあちこちで授業したいと今思いつきました。
・分科会に参加し、SDGs を活かしてみたいと感じた。
・企業さんや団体さんの活動が身近であることを知り、今後うまく連携していけたらと感じた。
・環境の知識をたくさん学べたので、これからの生活に生かしていきたいです。
・未来のスタッフをスカウトできた。
・SDGs についての新たな知識、子供（小学生以下）にも分かる教え方が見つかった。
・人とつながること、コミュニケーションをとることが大切だと思いました。
・次の代（後輩）に伝えていくこと。
・他者、他分野の取組に参加することは難しい事ではないことがわかった。山の大切さを伝えることを続ける勇気をもらった。
・環境教育の必要性をより感じるようになった。
・自分の生活をみなおすヒントになった。
・人に発信して、多くの人の考えを知っていきたい。
・自分のこととして環境問題をとらえ、広めていくことの大切さがわかった。伝えていけたらいいと思う。
・地元倉敷での活動が増えるかも？増えるといいな。
・将来、環境についてしっかり考え、実際に行動できるような人になりたいと思った。
・" 今後訪問したい企業や NPO が見つかった。
・総合的な学習探求の時間につなげたい。
・ゴミをもっと拾う活動を広げる。
・いっしょに地域循環共生圏を構築できそうな仲間と出会えた。
・BDF を使った環境学習を検討する
・魚の先生の依頼先が見つかった。次の企画のヒントがたくさんあった。
・あちこちで講演などの案内をいただきましたので、参加できそうなものにまた参加してみたいと思います。
・SDGs の伝え方　環境学習時、小学生のメンバーと供に毎日の生活の中での問題点を見つけていこうと思います。
・具体的にアクションを起こす。そこからフィードバックする。又いい方向が見つかると確信しました。
・本校での取り組みを様々な形で環境問題や防災の視点につなげる、ということが大切だと思い実践したい。



あなたの次のアクションについて、
手ごたえやヒントが見つかったか（回答数 111）

Q．次回開催時の進め方について、どの進め方を希望されますか？

【今年の進め方以外の場合、ご希望の進め方（一部抜粋）】
・今年のような進め方も必要だが、もっとつながりができるやり方があっても良い。あるいは環境教育に特化したワークがあっても良い。
・講和形式でもかまわないし、続けることが大切だろう。
・うまくいっているようなので変える必要なし。



次回、どのような進め方を希望されるか（回答数 110）

Q．本ミーティングをよりよくするために、ご意見やご要望など、どんな細かいことでもお聞かせください。

【一部抜粋】
・ブース展示の際に、同時進行で１団体３分（2 分？）くらいで PR できる時間をつくってはどうでしょうか？今回せっかく出来たつながりを「持続」するために、希望者でメーリングリストを作るというのはとても良いことだと思います。来年４月から環境教育に関する「授業」、「イベント」をいろんなところでやっていきたいと思います。ぜひお声掛けください。
・分科会のスペース（配置）が狭く、他の分科会の声や音が気になってしまい、参加者の声が聞こえにくい場面もあり、集中が途切れてしまったことが残念でした。
・大学生のテストとかぶっているので少しずらすと大学生は参加しやすい。
・お茶コーナーとかあるとそこで和んでいい話も出るかも～と思いました。つくえがほしいです。荷物をおくカゴとか…。
・なにもよくしなくてもいいほどよかった。
・外国人も入れたグローバルな意見交換が出来ないものかと。
・若い方の意見が新鮮だったので、子供たちの参加を促すこと。
・特にないです！最高でした！！！
・ブースとブースの幅を広げる。
・親子で参加できるブースやＷＳがあれば、夏休みの小学生の学びの場となり、子どもがきっかけとなって親にも広がると思います。せっかくの集いが、今のスタイルでは、なかなか子育て世代には広がりにくいように思い勿体ないです。

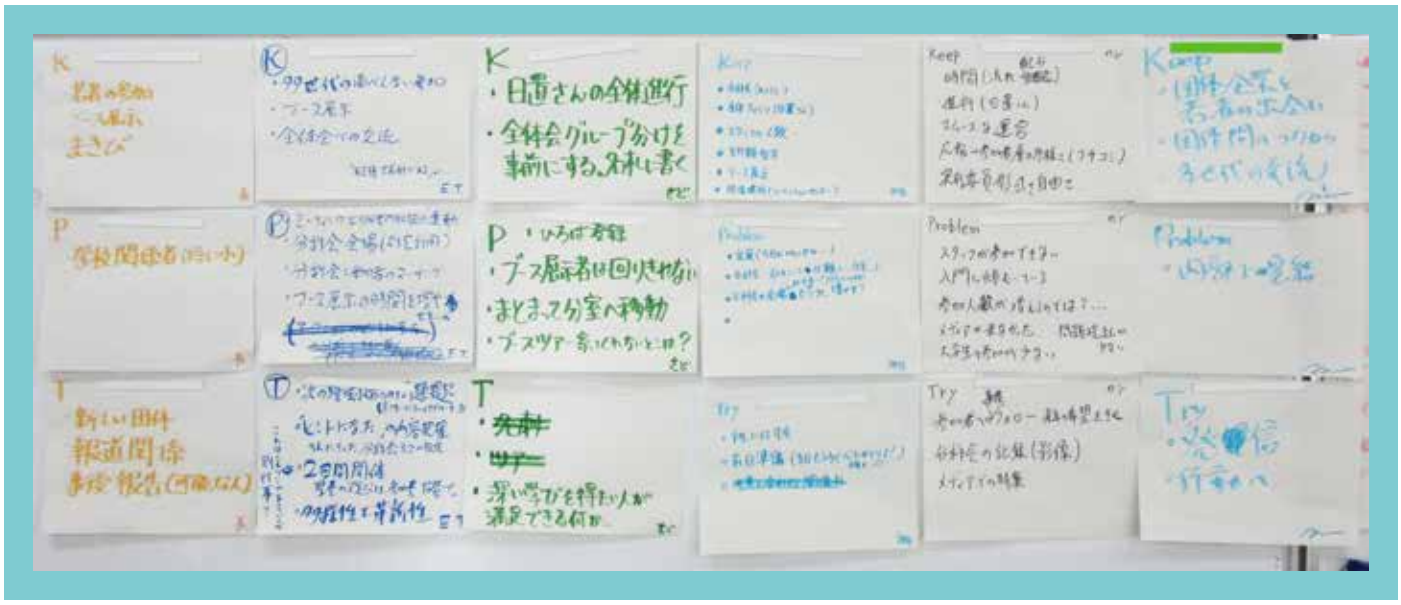
まとめ

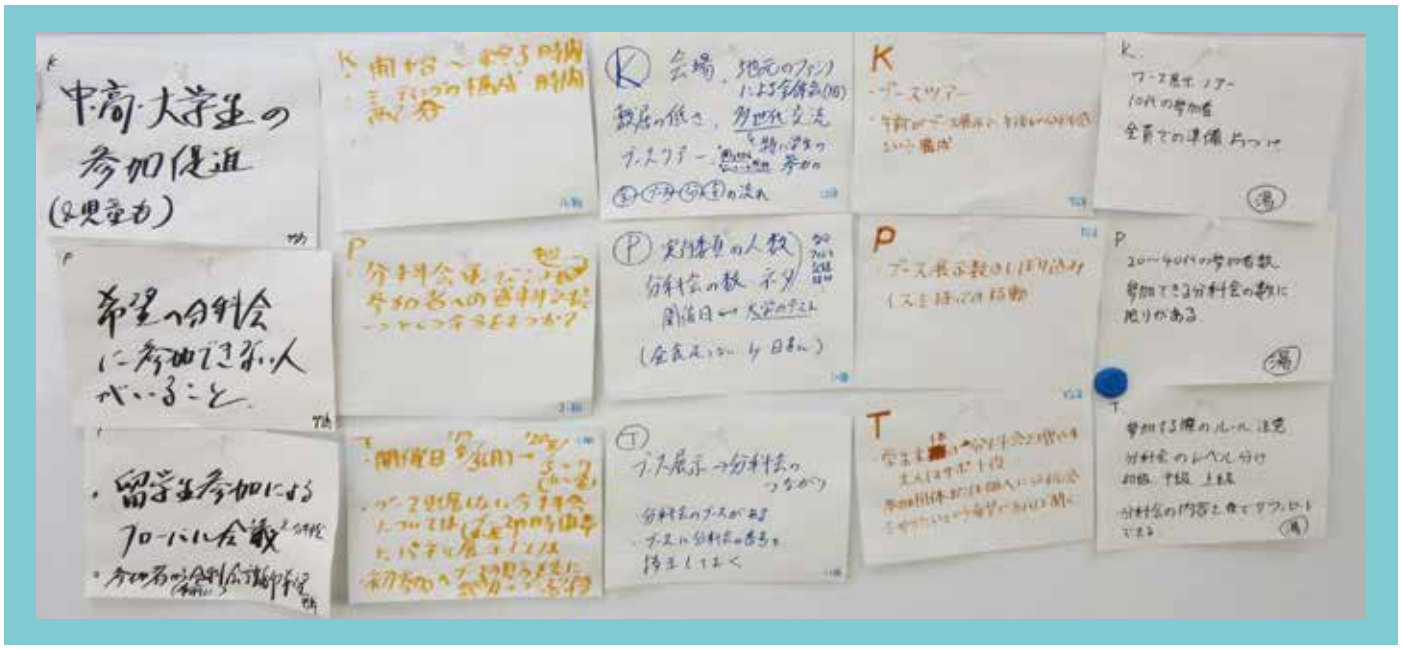
・全体的に非常に満足度が高く、満足度 100 点の人がほとんどであった。
・特に 10 代の学生などは、満足度も高く感動が伝わるコメントが多く、多世代交流による効果も見られた。
・ブース展示、分科会、全体会、それぞれに満足度高く、参加した大人からの中高生への賛辞も多い。
・進め方やプログラムなどについては変える必要はないという意見がほとんどで、継続してこの場を作っていってほしいというニーズが見て取れた。

上記から、過去最大の参加者数の中で、多くの方の満足と次につながる学習や人脈作りに貢献できたことは、とても大きな成果だと言える。多世代の交流の場ともなっており、継続して開催していくことで更なる環境教育の推進につながると確信している。

実行委員会でのふりかえり

【後日、おかやま環境教育ミーティング実行委員会でふりかえりと次回に向けての協議を行い、Keep（続けたいこと）、Problem（改善していきたいこと）、Try（新たに挑戦したいこと）で以下のとおり整理を行った。
【※以下、一部抜粋】





■Keep（続けたらいいこと）

・ミーティングの構成・時間配分。
・敷居の低さ、多世代（特に学生の参加）交流、中高大学生の参加。
・ブースツアーの実施。
・午前がブース展示で午後が分科会という構成。
・全大会で多くの人同士の交流が出来ていること。
・分科会（10 個くらい）の数はちょうどよかった。
・分科会について展示ブースをそのまま利用したことで設置や移動がスムーズにできた。
・非常に多くの参加者、満足度高い実施内容。
・環境に関わる第一歩、きっかけの場となっていること。
・参加者 3 割が「10 代」であること。
・全体会（ふりかえり）の時間は大切で続けるべき。

■Problem（問題なこと）

・希望の分科会に参加できない人がいること。
・分科会の数・ネタ。
・開催日が大学生のテストと重なっている、20 ～ 40 代の参加者数が少なかった。
・参加できる分科会の数に限りがある。
・学校関係者（特に小）が少なかった。
・ミーティングとその他の取組の連動。
・分科会会場をさらに別室を利用するなどゆとりを持った実施が必要。
・分科会と参加者のマッチングが出来ていなかった。
・ブース展示の時間を増やせないか、ブースの展示者は時間がなくすべてのブースを回り切れない。
・ブースツアーは特定のブースに寄っていたが、寄らなかったブースはどうするか。
・参加人数が会場定員の限界を迎えている。
・ブース展示を全部回る時間がない。各ブースの概要が分らない。

■Try（試したいこと）

・留学生参加によるグローバル会議 & 分科会。
・（事前に）参加者から分科会講師希望。
・ブース出展しない分科会についてはブース出展の時間帯にパネル展示してはどうか。
・学生主体の分科会を増やす。大人はサポート役とする。
・参加団体または個人に分科会をやりたいという希望があれば聞く。
・分科会のレベル分け（初級・中級・上級）をすることで参加者の要望に沿った内容となると考える。
・分科会の内容を後でダウンロードできるようにすれば、希望の分科会に参加できなかった人も満足すると思う。
・新しい団体、報道関係の参加を促す。
・次の環境教育への問題提起（足りないところへのアプローチ）。
・「ヒントになった」の内容把握。それに沿った分科会テーマの設定。
・2 日間開催。
・参加者を 2 グループに分けてブースと分科会。
・ブースの話が聞ける整理番号もしくは整理券の発行。

開催までのスケジュール＆実施プロセス

■実行委員会等開催スケジュール

4月26日（金）17：00～19：00
第1回実行委員会
協議：委員長・副委員長の選出、開催目的、
ゴールなど全体構成、分科会について
報告：開催までの大まかなスケジュール

5月14日（火）　関係者向け（ブース出展者等）開催案内について広報・参加者募集開始

5月17日（金）17：00～19：00
第2回実行委員会
協議：広報、分科会のテーマ、実施内容について
報告：ブース展示申込状況

7月　3日（水）　一般向け開催案内について広報・参加者募集の開始

7月16日（火）17：00～19：00
第3回実行委員会
協議：当日の詳細スケジュール、当日の担当割振、分科会の記録について
報告：申込状況

8月　5日（月）10：00～17：30
第7回おかやま環境教育ミーティングの開催

9月24日（火）17：00～19：00
第4回実行委員会（ミーティングのふりかえり、次回の開催に向けて）

■実行委員会メンバー

（実行委員）

環境団体	2名	
NPO	1名	
民間企業	1名	
公益財団	1名	
行政	1名	（岡山県 新エネルギー・温暖化対策室1名）
大学生	1名	
学校関係	6名	（小学校教員1名、中学校教員2名、高校教員1名、教育庁・教育委員会2名）
合計	13名	

（岡山県担当者及び事務局）

県担当者	1名	（岡山県 新エネルギー・温暖化対策室1名）
事務局	4名	（環境学習センター「アスエコ」4名）

環境教育の輪はますます広がります！
to be continued...